

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	橋本市立応其小学校	辻脇 昌義
学校所在地		
〒 6 4 9 - 7 2 0 3 和歌山県橋本市高野口町名古屋 1 9 - 1 tel 0736 (42) 2067 fax 0736 (44) 2132		
担当者名		役職名・担当教科
小西 杏理		5年学年主任
<p>〔学校の概要〕</p> <p>平成28年、応其小学校は、創立140周年を迎え、本年度は、143周年目となる歴史のある学校です。応其小学校の位置する橋本市高野口町は、北は和泉山脈、南は高野山に囲まれ、また町を東西に紀伊山地大峰山系からながれる紀の川が流れる豊かな自然がたくさんある町です。高野口町は、文字通り、昔から、高野山への登り口として発達してきており、今でも高野口駅前から宿や街道の旧跡が見られます。</p> <p>本校応其小学校の「応其」の地名は、高野山を秀吉の焼き討ちから救った「応其上人」に由来します。運動場北側には、応其上人の石碑があり、運動場周辺には、応其上人が田畑を潤すためにつくった引の池からの恵みの水が今も流れています。</p> <p>本年度の児童数は、17クラス、280名で、「学びをたのしみ心豊かに生きる児童の育成」という教育目標のもと、全教職員が力を合わせながら、学校運営をしています。児童の特徴としては、人懐っこく、元気な児童で、児童会を中心として、縦割りグループでの遊びや清掃活動等に熱心に取り組んでいます。また、地域の方々や保護者も学校に協力的で、見守り隊や図書ボランティアをはじめ、いろいろな面で支援をいただいています。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 5 年生 5 4 名	6 名 職員 1 2 名	学校
実践研究テーマ		
応其ふるさと学		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	応其を知ろう	
〔キーワード〕 過去・現在・未来のつながり(持続可能な社会づくりの担い手を育む教育(ESD)) 地元ふるさとへの愛着と誇り		
〔単元目標〕		
<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとを学習することにより、過去から現在に至るまでの歴史を知るとともに、未来に向けてのまちづくり、持続可能な社会づくりについて考えることのできる児童を育成する。 ・地元高野口町内の歴史を中心に学習することにより、ふるさとに愛着や誇りを持ち、これからもふるさとを大切にできる児童を育成する。 		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 35 時間 （「世界遺産高野山へ行こう！」 6 時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
<p>毎年、ゲストティーチャーとして、元教員で地元の歴史に詳しい方を招へいして、児童たちにわかりやすく写真や図を用いて説明いただいている。</p> <p>また、市の学芸員の方からも、地元の歴史でわからないことについて教えてもらったり、資料をいただいたりしている。</p>		

実践校に関する事項			
〔単元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1. 応其について調べよう。 2. 自分の調べたいテーマを決める。 3. 収集した情報をまとめ交流する。	・応其の歴史や文化、産業、偉人など今まで学習して持っている情報とインターネットや本を使って集めた情報から、自分の興味関心があるテーマを見つけ自己決定する。	情報活用能力 ワークシート 課題発見力 ワークシート
2	4. 応其とつながりのある高野山について調べまとめる。 5. 世界遺産学習にむけ事前学習を行う。	・高野山に行く前に、実際に調べたり、話を聞いたりすることで、興味をもって現地学習に向かわせる。	課題追及力 ワークシート
3	6. 世界遺産である地元の高野山にいき、高野山の歴史や文化に触れ、体験したり、話をきいたりすることで、高野山の素晴らしさを感じ理解を深める。	・高野山を訪ね、世界遺産について学習するとともに、霊宝館を見学したり、壇上伽藍を歩いたり、高野山の歴史に触れる。	課題追及力 観察 ワークシート
4	7. 現地学習で体験したことや実際に見たもの、きいた話を新聞形式でまとめる。	・頂いた資料を写すのではなく、実際に高野山に行き、発見したことや感じたことを中心にまとめるようにする。	情報活用能力 ワークシート 自己表現力 ワークシート
5	8. ゲストティーチャーを招き、地元応其と高野山の関係について詳しく話をきく。 9. パンフレットにまとめる。	・内容を選び、分かりやすく伝えられるように、タイトルや構成、文章表現を工夫し、校内児童を対象にしたパンフレットをつくる。	自己表現力 ワークシート
〔単元学習の成果と課題〕			
<p>成果</p> <p>応其については、三年生のふるさと探検でさまざまな町のよさに気づくことができていた。五年生では、歴史や先人の活躍について詳しく調べたり、実際に講師先生を招き、応其と高野山の関係について教えてもらったりしたことで、ふるさとのすばらしさを感じ、世界遺産のある高野山と深くつながりがあることに誇りを持てた。</p> <p>課題</p> <p>内容や資料を選択し、表現を工夫しまとめることができたが、発信することができなかった。今後は学習したことを校内で発表したり、地域の方に伝えたりする機会を持てるとよい。また、ふるさとの過去、現在を知り、その先の未来についても考える時間を設定していきたい。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>実際に世界遺産である高野山を訪れ、世界遺産についての話を聞いたり、高野山内を歩いたりすることにより、高野山についての理解を深めることができ、また世界遺産を身近に感じることもできた。また高野山の学習だけでなく、地元高野口町との関わりも学ぶことで、町がどのように栄えてきたのか、高野山へ通ずる街道がどのような役割を果たしていたのかがよく理解できた。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>今後も、世界遺産高野山の学習をふるさと学習のカリキュラムに位置付けて実施していきたい。時間があれば、高野山内のフィールドワークを増やしたり、実際の阿字観や写経等の体験活動をしたりしながら理解を深めさせたい。また、高野口町内においても、実際に町を歩いて見学することで、歴史の面白さやロマンを体感させたい。</p>			

様式 2

令和元年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]



世界遺産学習の事前学習をした。
写真やパンフレットで高野山とはどんなところなのかを知ることができ、それぞれのイメージをもち、現地学習に向かわせることができた。

現地学習では、世界遺産について学習した。世界遺産の種類、世界各地にある世界遺産など、世界遺産とはどんなものなのかを学ぶことができた。



霊宝館や壇上伽藍の見学をした。世界遺産マスターの方から、お話を聞いたり、実際に歴史ある建物をみたりした。仏像もたくさんあり、児童はお気に入りの仏像を見つけるなど、興味をもって学習に取り組めた。



ゲストティーチャーとして、地域のことに詳しい方を招き、高野山と応其の関係について話をきいた。質問時間をとり、知りたいことを聞くなど、学びの多い時間となった。

世界遺産学習のまとめとして、パンフレットづくりを行った。現地学習や地域の方から得た情報から、自分が伝えたい内容を選び、工夫してまとめることができた。また、完成したパンフレットを使って交流し、友達の表現のよさに気づくこともできた。